



Title	タイ人日本語学習者の接続詞「そして」の使用状況および要因
Author(s)	スワンナコート, パッチャラーパン
Citation	日本語・日本文化研究. 2019, 29, p. 300-309
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/73715">https://hdl.handle.net/11094/73715</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

# タイ人日本語学習者の接続詞「そして」の使用状況および要因

スワンナコート パッチャラーパン

## 1. はじめに

接続詞「そして」の誤用に関してはこれまで様々な研究において指摘されてきた。中でも、片桐（2016）は、タイ人日本語学習者が他言語を母語とする学習者より「そして」を多用していることを報告している。また、タイ人の上級日本語学習者のデータから以下のような意味的な関係の誤用が観察された。（1）では、本来なら因果関係を表す「だから」が必要なところに「そして」が使用されている。

（1） はい、実は一わたしのお父さんは日本人で一、日本で一、あ一、働いています、そしてわたし日本にい、行く時は、お父さんの所に、住みます、お父さん一が住んでいる、所は、大阪市の〔地名 B〕市、です、はい、{笑} 日本に、行って一、お父さんと 2 人、え一過ごします、暮らして、暮らしました （タイ人の上級学習者）

以上の使用例から、上級学習者であっても、一般的に初級で導入される「そして」の誤用がある。では、「そして」の誤用をなくすためどのように導入すればいいのだろうか。先行研究では「そして」を初級で導入しないことや、その他の指導法が提案されている（阪上 2014 など）。「そして」をいつ、どのように導入すべきかを検討するためには、各レベルの使用状況および要因を考慮する必要があるが、このような試みは管見の限りない。そこで、本研究ではタイ人日本語学習者のデータを用いて、各レベルの「そして」の使用状況を観察し、その要因を考察することを目的とする。

## 2. 先行研究

ここでは、これまで「そして」がどのように研究されてきたかを概観する。まずは「そして」の用法を確認してから、指導法に関する研究およびタイ語との対照研究をまとめる。

### 2.1. 「そして」の用法

日本語記述文法研究会編（2009）では、「そして」は添加型の接続詞であり、（2）のように先行部に加え、後続部でも意味的に同じ内容のものが続くことを表し、また「そして」は文が（3）のように連なるときに繰り返して用いられることはあまりなく、列挙の最後の項目の前に用いられるのが最も自然だと述べられている。

（2） 郵便局に貯金がいくらかあります。そして、銀行に定期預金があります。それが私の全財産です。

（3） ?お盆休みは北京に行った。まず、天壇を見学した。そして、天安門広場を見た。そして、世界最大級の宮殿、故宮を見た。 （日本語記述文法研究会編 2009）

## 2.2. 「そして」の指導法

山内（2009）は自然順序仮説（クレッシェン・テレル 1986）を背景に、あるレベルで使用者が増えている文法項目は前レベルで習得したもので前レベルで教えるべきだと主張している。KY コーパス<sup>1</sup>を用いて各レベルの様々な文法項目の出現頻度を調査した結果、「そして」は上級段階で使用者が増えているため、中級段階で教えるべきだと述べている。

石黒（2000）は「そして」の用法、機能、出現頻度を論じた上で「そして」の指導法を提案している。初級では話し言葉を中心に導入する立場では「そして」より「それから」の方が相応しいことや、書き言葉も導入する場合には「そして」の「決定的」という機能と、話し言葉ではあまり用いられないことについて注意する必要があると述べている。

阪上（2014）は初級教科書と話し言葉コーパスを分析した結果から、初級では話し言葉において「そして」を導入せず、「それから」で代用するなど、改善法を提案している。

片桐（2016）は「そして」とタイ語の対照研究を行った上でタイ人日本語学習者の「そして」の多用問題解決方法として、学習者に自分の話し方に自ら気づかせることや、前の文との意味的な結びつきを確認させる練習を取り入れることを提案している。

## 2.3. 「そして」とタイ語の「lɛɛw (kɔɔ)」

片桐（2016）はまず3～5文字列のNグラム処理分析をした。その結果、タイ人日本語学習者が、中国語・韓国語・英語母語話者より「そして」を3倍以上多く使用していることがわかった。また「そして」とそれに近いタイ語の形式である「lɛɛw (kɔɔ)」と対照研究を行った結果、「lɛɛw (kɔɔ)」は対話場面でよく使われる形式であるのに対し、「そして」は書き言葉と独話場面において主に用いられ、用法については、「lɛɛw (kɔɔ)」は「そして」よりも用法の幅が広いことが明らかになった。さらにタイ語のデータに現れた「lɛɛw (kɔɔ)」をタイ語のできる日本語母語話者に日本語に翻訳してもらったところ、「lɛɛw (kɔɔ)」は「それから」「だから」「でも」などに翻訳されることがあることがわかった。

## 2.4. 残された課題

以上のように「そして」はこれまでその用法、指導法、タイ語の形式との違いに関して様々な観点で研究されてきたが、学習者のデータを用いてレベル別で「そして」の使用を観察し、その要因を考察した研究は管見の限りない。指導法を改善するには学習者のデータを観察することが不可欠であると考えられるため、本研究ではタイ人日本語学習者のデータを用いて、各レベルの「そして」の使用状況を観察し、その要因を考察する。

## 3. 調査方法と学習者データ

本調査ではまず学習者コーパスを用いて、各レベルの「そして」の出現頻度と誤用を観察した。次に先行研究を踏まえて、データから観察した出現頻度と誤用に影響を及ぼす要

因を考察した。データは、タイ人日本語学習者話し言葉コーパス (Corpus of Thai learners' Japanese Conversation : 以下、CTJC) を利用した。CTJC は、面接形式による 132 本のタイ人日本語学習者のインタビューデータを収録したコーパスで、レベル判定は OPI<sup>ii</sup> の基準でなされている。レベルは、初級、中級、上級に分かれ、そのサブレベルとして下・中・上が設定されている。学習者数は、初級が 24 名 (中 5 名、上 19 名)、中級が 78 名 (下 16 名、中 26 名、上 36 名)、上級が 30 名 (下 14 名、中 12 名、上 4 名) である。

#### 4. 出現頻度

本節では各レベルの「そして」の出現頻度を観察する。まず CTJC における全体的な使用を観察してみる。他の接続詞に対する「そして」の出現頻度がわかるように市川 (1978) で「添加型」に分類された他の接続詞の出現頻度も見てみる。調査結果は表 1 に示す。

表 1 「添加型」の接続詞の出現頻度

接続詞	そして	そうして	ついでに	つぎに	それから	そのうえ	それに	さらに	しかも	また	と同時に	そのとき	そこへ	次の瞬間
頻度	615	4	1	0	211	0	51	2	2	126	0	48	0	0

表 1 から「そして」は「添加型」の接続詞の中で最も多く使用されていることがわかった。「そして」の使用は他の接続詞より圧倒的に多く、2 番目に多く使用されている「それから」より 3 倍ほど使用されているのである。「そして」および「それから」の使用については、阪上 (2014) では日本語母語話者の会話でも独話でも「そして」は「それから」の出現頻度より約半分であることを報告している。タイ人日本語学習者の「そして」と「それから」の使用頻度は日本語母語話者の使用頻度とは真逆なのである。

次に各レベルの「そして」の使用傾向を観察する。各レベルの「そして」の出現頻度は表 2 のとおりである。括弧の数字は 1 人当たりの出現頻度を示す。

表 2 レベル別の「そして」の出現頻度

	初級	中級	上級
下	-	121 (7.56)	81 (5.79)
中	4 (0.80)	127 (4.88)	45 (3.75)
上	33 (1.74)	203 (5.64)	1 (0.25)
合計	37 (1.54)	451 (5.78)	127 (4.23)

学習者は初級の半ばという早い段階から「そして」を使い始めて、初級-上で 1 人当たり約 2 回使用している。それから、中級になって、使用回数が増えていき、1 人当たり 6 回程度使用している。また、上級になって使用回数がだんだん少なくなっており、上級-上では 1 回しか使用されていないことがわかった。

以上のようにタイ人日本語学習者の「そして」の使用は中級で増えていることが明らかになったが、この結果は KY コーパスで調査した山内 (2009) と異なる結果となっている。自然順序仮説 (クレッシェン・テレル 1986) に反して、使用は普遍的なものではなく、

母語をはじめ様々な影響が与えられると考えられる。そして各項目は使用が多い段階の前に教えるべきという山内（2009）の主張を仮に認めるとするなら、「そして」は中級段階の前の初級で教えた方がいいということになるだろう。

## 5. 誤用分析

4.で出現頻度を観察した結果、「そして」は初級の文法項目のように思われるが、出現頻度のみを根拠にいつ教えるべきかを決め付けるのは不十分だと考えられる。なぜなら学習者のデータには誤用も含まれているためである。使用状況を把握するには、出現頻度のみではなく、学習者はどのレベルでどのような誤用をしているかを知ることが不可欠であろう。そこで、本節では「そして」の誤用分析を行う。「そして」の誤用については、多用問題と意味関係に関する誤用に分け、レベル別に実際の発話データを確認していく。

### 5.1. 多用問題

日本語記述文法研究会編（2009）によると、「そして」は文が連なるときに繰り返しては用いられにくい。それにも関わらず、タイ人日本語学習者の発話データにおいて、「そして」が多用されている現象が多く見られた。以下、レベル別でその多用現象を観察する。

(4) が初級－上で、(5) が中級－上、(6) が上級－中の学習者のデータである。

(4) (略) 母と一2人で、プーケットへ、い、行きました一、そして一、あの一、飛行機で、行きました、(略) プーフォンマンス [パフォーマンス]、が、を見ました、そして、はまべー[浜辺]で、遊びました (タイ人の初級学習者)

(5) えと一、ドア、ドア、えと一、ドア、ドアから開けて一、リビングの一、しつ、リビングルーム、そしてえ、えと一、もっと奥に一、歩いたら一、ダイニング一、のしつです、そして、ダイニ、ダイニングの、みぎ一、がわ[右側]、が、台所です、そして一、かいだん一[階段]、階段は一、すここは一、台所ですよ一、台所の一、す、台所の一、みぎ一、がわ[右側]は一、階段です、2階に、行ける階段 {笑いながら}、そして一、階段を、あけ、あけ、たら一、えっと一、さ、3つ目のしつが一、3つのしつが、あります (略) 1つは {笑いながら}、わたしのおか、お父さんとお母さん、そして一、2つ目は一、お兄さんの部屋、そして一、1番狭いのは一、わたしの、部屋です (タイ人の中級学習者)

(6) (略) パーイさんの家族は一、どーぶ、えっと一どーぶつえん一[動物園]を一、どーぶつえん一[動物園]のオーナーですね、お父さんパイさんのお父さん、そしてえその、その、その時は、イン一、インドは、ちょっと一、と一、ふけ一、ふけざい一、確か {笑} {息を吸う音} ふけ一だから一、お父さんは一、動物園を一、他の所に一ひら、開こうと思っています、(略) 船の中で一、あるばん一[晩]、大きいハリケーンが一起きてえ、えと一、船が、なんと、倒れ、てしま、しまいました、

そしてえ、パイさんの家族がみんな、亡くなりましたが一、パイさんが、パイさんが、生きます、パイさんは、小さいボートに、んん一、逃げ一、逃げられます、そしてえ、パイさんが起きたら一、大きい一、ベンガル、な、トラと一緒に、同じ、ボートに、いました、そしてえ、えと一、パイさんと一、その一、そのトラ、と一、毎日、暮らす、ことを、み、見ました、はい、す結局は、パイさんが、と一島に、着きました、そして一、パイさんが一、その一、そのトラは、んと一、は、森に、行ってしまった、そしてパイさんは、いえ[家]に帰りました (タイ人の上級学習者)

(4) ~ (6) から、初級学習者は多くても一つのターンに2回「そして」を使用し、中級学習者および上級学習者は一つのターンに6回も使用していることがわかった。

このように、中級以上の学習者は、自立して長く話しながら何かを説明することができるようにはなっているが、「そして」を6回も使用するターンもあることがわかった。

## 5.2. 意味関係に関する誤用

日本語記述文法研究会編(2009)によると、「そして」は添加型の接続詞であり、先行部に加え、後続部でも意味的に同じ内容のものが続くことを表す。しかし、タイ人日本語学習者の発話データを見ると、中級および上級学習者を中心に、以下のように異なる接続関係を示す場合に用いることがある。まず、(7)は中級一上の学習者のデータである。

(7) 実はこの、テーマは一、去年の学生は、あ一決めていたんです、そして一去年はこうす、洪水ですから一{笑}まあ、去年は一、キャンセルさせてし一  
(タイ人の中級学習者)

(7)では、「去年の学生が決めた」という文と「去年は洪水だからキャンセルされた」という文は逆接関係を持っているものの、この中級学習者は「でも」や「しかし」の代わりに「そして」を使用して、逆接関係を示している。

逆接関係の誤用の他に中級一上の学習者のデータから(8)のような誤用も観察された。

(8) お一、お一母は一、う一ん会議、プサンで一会議が、ありました、そしてわたしは、う一わたし、わたしは、う一、一緒に行きました{笑} (タイ人の中級学習者)

(8)では、「お母さんがプサンで会議があった」という文と「わたしが一緒に行った」という文が因果関係を持っているが、「だから」の代わりに「そして」が使用されている。

上級学習者のデータには逆接関係の誤用は見られなかったが、因果関係の誤用は見られた。その例は上級一中学習者のデータの(1)である。

(1) はい、実は一わたしのお父さんは日本人で一、日本で一、あ一、働いています、そしてわたし日本にい、行く時は、お父さんの所に、住みます、お父さん一が住んでいる、所は、大阪市の[地名B]市、です、はい、{笑}日本に、行って一、お父さんと2人、え一過ごします、暮らして、暮らしました (タイ人の上級学習者)

(1) では、「わたしの父が日本で働く」と「わたしが日本に行く時、父の所に泊まる」という文は因果関係を持っているものの、「そして」が使用されている。

レベル別の「そして」の誤用をまとめると、タイ人日本語学習者は初級段階では短い文しか話せないため、一つのターンに多くても2回使用されている。中級段階では一つのターンに6回も多用し、逆接関係および因果関係を表す場合に誤って使用されている。上級学習者は多用の現象は見られたものの、表2のとおり全体の使用が減っており、誤用分析からわかるように誤用の種類も少なくなっている。

このように、「そして」は中級段階で出現頻度が高かったとしても、中級学習者は誤用を生み出さないレベルまで完全に正しく使えているとは限らない。一方、上級では、使用が少なくなっており、誤用の種類も少なくなっていることから、その時点では自然な日本語に十分に触れていることなどがきっかけで正確かつ自然な使い方がある程度定着していると言えよう。「そして」は使用が増えている段階の直前レベルである初級でなく、正しく使えるようになっている上級段階の直前レベルである中級で教えたほうが効果的であろう。「そして」が中級の文法であることは、先行研究と一致する結果であるが、自然順序仮説(クレッシェン 1986)の観点でいつ、どの文法を教えるべきかを考える場合、「出現頻度」のみではなく「誤用分析」も考慮する必要があることを主張したい。

## 6. 使用状況に影響を及ぼす要因

では、タイ人日本語学習者がなぜ「そして」を多用したり意味的な関係に関する誤用をしたりするのだろうか。使用状況に導く要因が把握できれば、日本語教師はそれを手掛かりに導入の工夫をすることができると考える。タイ人日本語学習者の各レベルの「そして」の出現頻度は KY コーパスを使用した山内(2009)のそれと異なることから、使用は母語や母国で受けた指導方法から影響を受けていると考えられる。そこで、本節では、母語、教科書という2つの観点でそれぞれどのように使用状況に影響を及ぼすかを考察する。

### 6.1. 母語の影響

「そして」と近い形式である「*lɛɛw kɔɔ*」は使用場面と用法が対照的であることは片桐(2016)で既に明らかになっている。本研究でも同様に母語干渉が観察されるが、他にレベル別に観察することによってどのレベルまで母語干渉があるかも確認できた。

「*lɛɛw kɔɔ*」が話し言葉において用いやすいため、「そして」を決定的な機能を知らないまま「そして」を「*lɛɛw kɔɔ*」の代りに初級段階から使用していると考えられる。出現頻度の観察からわかるように中級学習者を中心に使用が圧倒的に多いことと、中級段階で(7)(8)のような誤用が見られ、上級段階より誤用の種類が多いことから母語は少なくとも中級まで大きな影響を与え続けると考えられる。

誤用の原因について、「léew kôo」がより幅広く使用できることから (4) ~ (6) のような多用問題が発生し、また「léew kôo」が「だから」「でも」に翻訳できるため、(7) (8) (1) のような意味関係に関する誤用も見られた。

さらに本調査のデータから母語の影響は語彙レベルの意味の違いに留まるものではないと考えられる現象も見られた。(5) および (6) の中級と上級学習者の多用問題の使用例から、「そして」の後に「え」や「ー」が付いている現象があり、「そして」が伸ばされて使用されていることが観察された。その他、「えっと」のようなフィラーとの共起も観察された。これらの現象から、タイ人日本語学習者は時間を稼ぐために「そして」を使用していると解釈できる。タイ語の「léew kôo」も次のように同じように使われることがある。次の3つの例はタイの芸能人をインタビューする番組から抽出したものである。

(9) (役作りの参考にした女性の親友について話す)

kháw        mii        fɛɛn        léew        léew kôo        bɛɛp        raw        pen        mǎan  
 彼女        持っている        恋人        完了        léew kôo        なんか        私たち        である        似ている  
 phûan        sànit        kan  
 友だち        仲いい        お互い

彼女には彼氏がいます。僕たちはただの親友です。 (Woody FM : Nine Napat)

(10) (自分の人柄について話す)

phǒm        wâa        phǒm        pen        khon        nàk        khít        yùu        tàlòotweelaa        léew kôo  
 僕        思う        僕        である        人        重い        考える        いる        いつも        léew kôo  
 ?əə        pen        khon        thii        chòp        waɛphɛɛn        ?à?ray        háy        tua        ?een  
 えっと        である        人        マーカー        好き        計画        何        あげる        自分  
 tàlòotweelaa  
 いつも

自分自身が重い人間だと思います。常に考えているし、いつも自分のための何かの計画を立てています。 (Woody FM : Tor Thanapob)

(11) (幼い頃転んだ経験について語る)

pen        phlɛɛpen        mǎankan        léew kôo        (1秒ほどの間)        khuu        mǎankàp        nǔu  
 である        傷跡        も        léew kôo        (1秒ほどの間)        とは        みたい        私  
 kôo        nâɲ        yùu        sákphák  
 それで        座る        いる        しばらく

傷あとはまだ残っています。(転んだあと) しばらく座って…

(Woody FM : Cherprang BNK48)

以上の例からタイ語の「léew kôo」は必ずしも「そして」のように先行部に加えて後続部に同じ内容のものが続くことを表すために使われているものではないことがわかる。例えば、(11)の先行部では傷跡の話になっており、「léew kôo」の後は傷跡を残した事故

の後の話になっている。それに加え (9) の「λέεω kôo」の直後の「なんか」、(10) の「えっと」、そして (11) の間が観察されることから「λέεω kôo」は時間を稼ぐために使用される場合もあると考えられる。

以上のように、「そして」と「λέεω kôo」は語彙レベルの意味的な相違点の他にも、談話における役割も異なっている。「λέεω kôo」は「そして」と異なり、時間を稼ぐために使われることがある。「そして」が「λέεω kôo」という意味で覚えたタイ人学習者は初級から無意識に「λέεω kôo」のように様々な場面に「そして」を使用し、考える時間が必要な場面で思わず「そして」を発してしまうと考えられる。

## 6.2. 教科書の影響

まず「そして」の使用段階への影響について考察する。初級教科書における「そして」の導入を考察した阪上 (2014) によると、「そして」は初級日本語教科書の前半部分で導入される。先行研究で対象とした教科書は『みんなの日本語初級：以下、みんな』をはじめ、世界中に市販されているものが多いが、タイの日本語専攻コースの高校生向けに基礎教育カリキュラムに沿って開発された教科書である『日本語あきことどもだち：以下、あきこ』を分析したところ、「そして」は同様に 3 課という早い段階で導入されることがわかった。「そして」はどの教科書においても初級前半に導入されるため、初級から使用が見られ、中級になって使用が増えていると考えられる。

次にタイ語版が出版されている教科書とタイ人によって開発された教科書における「そして」の出現部分を観察し、誤用の要因について考える。『みんな』では「そして」の語彙の意味として「λέεω kôo」が挙げられる。また「そして」は会話においてあまり用いられないにも関わらず (12) のように会話形式の例文に出現し、そのタイ語訳にも「λέεω kôo」が使用されている。さらに練習も会話形式になっている。

(12) きのうち 松本さんの うちへ 行きました。

…どんな うちですか。

きれいな うちです。 そして、大きい うちです

múawaan pay bâan khǒɔŋ khun mátsùʔmootoo maa khâʔ

昨日 行く 家 の さん 松本 来る 終

pen bâan bɛɛp nǎy khráp

である 家 タイプ どれ 終

pen bâan thii sǔay λέεω kôo yàʔ khâʔ

である 家 マーカー きれい λέεω kôo 大きい 終

(『みんな』8 課例文、p.148)

一方で『あきこ』では「そして」は (13) のように読解に現れる。

(13) (略) 月よう日から 金よう日まで じゅぎょうは あさ 8 じはんに はじま

ります。ごご 3じ10ぶんに おわります。そして、月よう日と 水よう日と金よう日には じゅくの じゅぎょうも あります。(略)

(『あきこ』3課よんでみよう、p.112)

『あきこ』では、会話形式での導入および練習がないということはタイ人日本語学習者が「そして」を使いすぎないための工夫だと予想されるが、語彙リストには「*lɛɛw kɔɔ*」のみが記述されており、語彙レベル以上の解説は見られない。「*lɛɛw kɔɔ*」は話し言葉においてよく使用される言葉であるため、「そして」が「*lɛɛw kɔɔ*」に完全に代用できると理解したタイ人学習者は誤用を発しやすいと考えられる。

## 7. おわりに

本研究では「そして」の出現頻度および誤用を観察した。またこれらの使用状況の要因として母語干渉と教科書における導入の影響も考察した。

「そして」の導入段階については、話し言葉においては「そして」を導入しないと提案した先行研究がいくつかある(石黒2000、阪上2014など)。しかし、「そして」をいつ導入すればいいかを考察するには、その機能や母語話者の出現頻度の観察だけでは不十分だと考えられる。本調査は、学習者の言語運用の観点で出現頻度とその要因を分析し、考察したが、出現頻度とタイ語に近い形式があることから「そして」はタイ人日本語学習者にとって定着しやすい項目だと考えられる。しかし、「そして」と「*lɛɛw kɔɔ*」の相違点は先行研究で明らかになっている。そして本研究でレベル別に誤用を観察した結果、上級まで上がらないと多用や様々な誤用の種類が多く見られたことから、正用がある程度できる上級の直前の中級で導入したほうが効果的だと思われる。

しかしながら、タイで使われている教科書を分析した結果、これらの教科書では「そして」が初級前半で導入されることが多い。このような教科書を教材として使用する教育機関では、初級で「そして」を導入することは避けられないかもしれない。それでも、中級段階での多用および誤用を防ぐために、導入の際、工夫が必要であろう。

片桐(2016)は、「そして」の導入方法として、学習者に自分の話し方に自ら気づかせることや、前の文との意味的な結びつきを確認させる練習を取り入れることを提案している。しかし、使用状況の要因を考察した結果から、「そして」と近い形式の「*lɛɛw kɔɔ*」の相違点が語彙レベルを超えており、母語干渉はかなり大きく、教科書でもタイ語との相違点が配慮されていないことがわかった。母語との違いを説明せずに教科書そのままの導入と学習者に自ら気づかせる方法だけでは、誤用が完全になくならないと思われる。そのため、タイ人日本語学習への「そして」の導入に際して、教師はタイ語との異なる点を明示的に説明し、意識させることが大切であると考えられる。

以上、「そして」の出現頻度の観察、誤用分析、要因の考察を通して、「そして」の指導に関する注意点を提案した。今後は、指導時に母語との異なりを明示的に説明するとい

う指導法は効果的かどうかさらに授業実施後の調査が必要であろう。また、タイ人日本語学習者の使用の特徴をさらに把握するために日本語母語話者との相違点についての調査や、学習目標に合わせた場面における日本語母語話者の接続詞の使用についての調査も行わなければならない。これらの調査は今後の課題としたい。

### 参考文献

- 石黒圭 (2000) 「「そして」を初級で導入すべきか」『言語文化』37, 一橋大学, 27-38.
- 市川孝 (1978) 『国語教育のための文章論概説』教育出版.
- 片桐カノックワンラオハブナキット (2016) 「教育現場とのつながりを意識した対照研究の試み—タイ人学習者の「そして」「なんか」の使用問題」庵功雄、佐藤琢三、中俣尚己編『日本語文法研究のフロンティア』243-267, くろしお出版.
- クラッシュェン, スティーヴン・テレル, トレイシー (藤森和子訳) (1986) 『ナチュラル・アプローチのすすめ』大修館書店.
- 阪上彩子 (2014) 「話し言葉における「そして」の指導法—話し言葉コーパスと初級教科書の分析を通して—」『神戸大学留学生センター紀要』20, 61-74.
- 日本語記述文法研究会編 (2009) 『現代日本語文法 7』くろしお出版.
- 山内博之 (2009) 『プロフィシエンシーから見た日本語教育文』ひつじ書房.

### 参考テキスト

- 3A Corporation (2560) มินนะ โนะ นิฮงโกะ [2nd Edition]. แปลโดย กองบรรณาธิการ สำนักพิมพ์ภาษาและวัฒนธรรม. กรุงเทพฯ :สำนักพิมพ์ภาษาและวัฒนธรรม (スリーエーネットワーク (2012) 『みんなの日本語 初級 第2版』スリーエーネットワーク)
- The Japan Foundation (2560) ภาษาญี่ปุ่น อะกิโกะโตะโทะโมะดะจิ ฉบับปรับปรุง. กรุงเทพฯ :สำนักพิมพ์ภาษาและวัฒนธรรม (『日本語 あきことともだち 改訂版』)

### コーパス

タイ人日本語学習者話し言葉コーパス(CTJC)<https://ctjc.si.aoyama.ac.jp/index.html> 2019年8月20日参照

### 用例出典

“Woody FM” Podcast <https://www.youtube.com/user/woodytalkchannel> 2019年8月20日参照

<sup>i</sup> KY コーパスとは、90人分の日本語母語話者のインタビューテープを文字化した言語資料である。学習者の母語は、中国語、英語、韓国語である。KとYはコーパス作成の担当者となった鎌田と山内の頭文字である。

<sup>ii</sup> Oral Proficiency Interview. ある個人の「熟度の度合い」や「能力」を測定するためのガイドラインである。OPIは、言語に関する知識ではなく、言語活動遂行能力を問う試験である。